

南あわじ市 平成 21 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

		整理番号	1262
事業名	(財)淡路人形協会		会計 一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課	款 教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3020		項 社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目 社会教育総務費・1目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		(財)淡路人形協会寄付行為
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_	
	まちづくりの目標	大好き_ふるさと南あわじ[郷土愛]	
	施策目標	地域の歴史を学び、祭や伝統文化に親しみ、語り継ぐことのできる市民を育てる	

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(対象者をどのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 500年の歴史を誇る国の重要無形民俗文化財である“淡路人形浄瑠璃芝居”の保存伝承・振興を図り、もって、南あわじ市から伝統文化の発信を行う。 浄瑠璃語り、三味線、人形遣いの三業が織りなす、淡路島が世界に誇れる未来に残すべき文化であり、人間国宝“鶴澤友路師匠”を輩出している貴重な伝統芸能である。 プロ集団である「淡路人形座」が自立できる段階までは積極的な支援が必要であり、小・中・高校生や勤労青年を含めた後継者団体についても育成していく責務がある。		
	団体の活動内容	(主な事業、具体的な活動内容等) 7つの後継者団体の育成支援(浄瑠璃太夫、三味線、人形遣いの養成)と発表の場づくりへの支援 淡路人形浄瑠璃の資料本の収集と保存研究、かしら・人形その他道具類の収集と保存 人形浄瑠璃に関する調査研究及びその成果の発表 淡路人形座の運営(プロ集団) 新人形会館の建設(平成23年春落成予定)と経営安定化への取り組み		
	団体の概要	(どのような人が団体の構成員となっているか、構成員の内訳等) 昭和52年4月1日設立。 役員は、理事16名、監事2名、評議員24名、顧問7名。任期は2年。 事務局は、南あわじ市教育委員会。 主な構成団体は、島内3市。		構成員人数(人) 49
	補助金算出根拠	事務局の所在(直接事務執行部署) <input type="checkbox"/> 補助団体 <input checked="" type="checkbox"/> 市役所 <input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (生涯学習文化振興課) <input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()		
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし		
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 補助金を継続すべき団体であるとして調整がなされた。		

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)	26,619	26,619	23,865	23,095	63,095
	負担金	26,619	26,619	23,865	23,095	63,095
	事務局事務費(市が事務局の場合)	0	0	0	0	0
	財 源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					40,000
	一般財源[A]	26,619	26,619	23,865	23,095	23,095
	人件費(正規職員)[B] (千円)	2,691	2,709	2,511	2,538	2,538
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	28.2	28.2
	事業量1(事業に要した日数)	90	90	90	90	90
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	29,310	29,328	26,376	25,633	25,633
	経費に関する 補足説明	平成22年度は、平成23年春に予定している人形会館(仮称)の開館に向けての準備、経営健全化等のための経費を増額している。なお、財源のその他は、淡路人形浄瑠璃館基金繰入金である。				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 後継者養成のための一般会計への補助金は、淡路人形浄瑠璃を今後も伝承保存するための将来への投資であり、平成20年度の三原中学校と南淡中学校の豪州公演、淡路三原高校の仏国公演、淡路人形座の米国公演を見ても明らかなように、世界に通じる日本の伝統芸能に対する責務としての助成である。 淡路人形座への運営に係る特別会計への補助金は、座員の人件費の補填の意味合いがあるが、入館者については高齢者に依存している傾向を止めることが出来ていない。新人形会館の建設に併せ、入館者の増加や土産物収入アップに繋げることが必要。また、文化庁や県当局の助成事業にも注目し市単独補助金の抑制を図る必要がある。	自己評価 (5点評価) 3
	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低	
必要性	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 淡路人形座の日々の公演活動も大事ではあるが、まずは、500年の間、守り伝承してきた“淡路人形浄瑠璃芝居”が淡路島の一番大切な伝統文化であることを、島民に宣伝していくことが必要である。後継者団体や淡路人形座が島内の学校や公民館等に積極的に出張公演していくことでしか、次世代に伝えていくことはできない。 続けていく(伝承していく)ことの大切さを、行政としても十分認識しておきたい。	自己評価 (5点評価) 5
	自己評価をふまえた現状分析 新人形会館の建設を絶好の転機と捉え、淡路人形浄瑠璃を見て喜んでくれるファンを増やしていく努力が必要である。 ハード整備のみならず、ソフト面からの動きとして、新会館オープン時の宣伝活動とオープン直後の接客サービスで好感度を上げ、口コミやブログ情報で新規客やリピーターを増やすことが補助金依存の体質の改善につながるであろう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">評価グラフ</div> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>
総合評価		

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成22年度にできる改善・改革	平成23年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>新人形会館オープン予定の平成23年春までは、現在行っている一般会計と特別会計への助成はやむを得ないと考える。</p> <p>ただ、オープン後に淡路人形座が補助金依存体質から脱却し、独り立ちしていけるような体制づくりを平成22年度は立ち上げる必要がある。</p> <p>なお、平成22年度の国県補助事業メニューとして、</p> <p>1) 文化芸術による創造のまち支援事業 2) 学校への芸術家派遣事業 3) 地域人材の活用による文化活動支援事業などがある。</p>	<p>新人形会館を人形浄瑠璃の拠点として位置づけ、人形協会事務局を現在の教育委員会から淡路人形座に移行し、組織の独立性と健全経営を図る。</p> <p>新人形会館建設後の淡路人形座の経営見込は、年間入館者見込み=85,000人 年間収入=143,570千円(通常公演46,440千円、レイトショー5,805千円、特別公演61,325千円、その他収入30,000千円)の試算をしており、不確定要素も多いが、福良地域への活性化効果も絡めて、地域文化の伝承・振興を図る。</p>
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>淡路人形浄瑠璃の保存伝承のための基盤が崩れることとなり、淡路人形座の存続自体困難となる。</p> <p>新人形会館建設後の淡路人形座の経営基盤が確立すれば負担金の継続投入が必要なくなるが、収入の大半が入館者収入であり不確定要素もある。</p>	